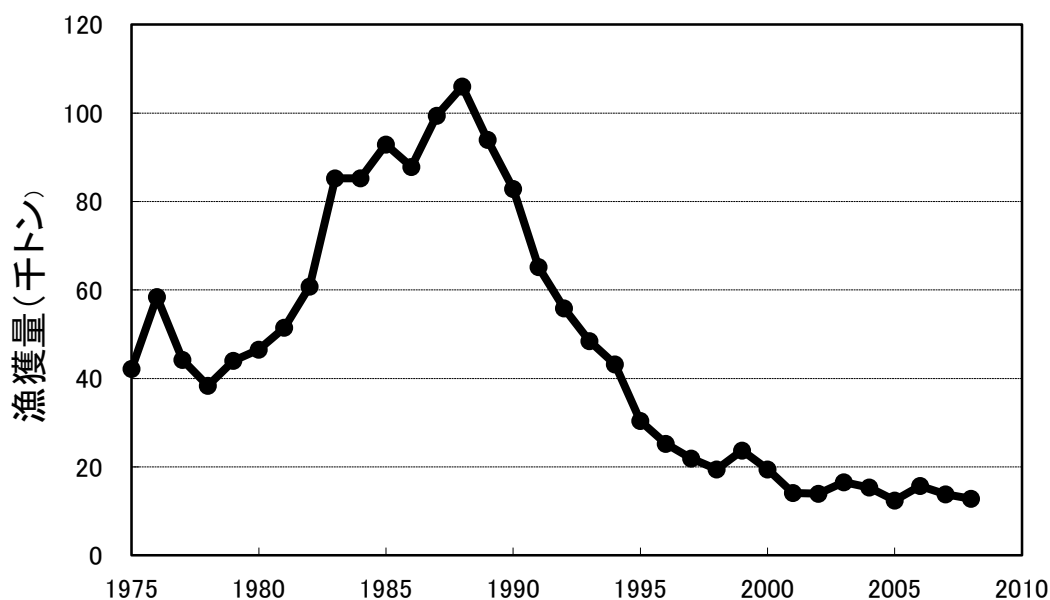


京都府の漁業

京都府沿岸には、西は丹後半島の付け根の久美浜町から若狭湾西部に位置する東端の舞鶴市まで、全長約 320km の海岸線に 2009 年まで 18 の漁業協同組合があった。しかし、漁協組合組織の合理化のために、2010 年 1 月にほとんどの漁協が合併して京都府漁業協同組合を構成し、湊漁業協同組合を含め 2 漁協となった。また両組合は 2012 年 4 月に合併して京都府 1 漁協体制となる予定である。

京都府の漁協組合員数は約 2500 人、総漁獲量は 12,760 トン、総水揚額は約 48 億円であった（2008 年度）。京都府の主要な漁業種は定置網であり、全漁獲量の約 7 割、漁獲金額の 6 割を占める。その他、カニ類やカレイ類などの底魚を漁獲する機船底曳網や一本釣りなども主要な漁業形態である。漁獲量は多い方から、サワラ、ブリ、アジ類（ほとんどはマアジ）、イワシ類（ほとんどはカタクチイワシ、その他マイワシ、ウルメイワシなど）、ハタハタ、シイラ、イカ類（スルメイカ、ヤリイカ、ケンサキイカ、アオリイカ、ソデイカなど）、カマス類、トビウオ類、サバ類などである。金額的にはサワラ、ブリ、アジ類と上位は漁獲量と同様であるが、続いて貝類（カキ、アワビ、サザアエ、トリガイ）、カニ類、イカ類、マグロ類、マナマコなどが重要な収入源となる。養殖対象種として、従来からブリ、マガキ、ワカメなどの養殖が行われてきた。近年、トリガイ、イワガキ、クロマグロなどが注目され、漁業者が積極的に養殖に取り組んでいる。栽培漁業の対象種としては、マダイ、ヒラメ、クルマエビ、クロアワビ、サザエがある。1990 年代以降漁獲量が大幅に減少しており、漁業資源の再構築が最も重要な課題となっている。



京都府総漁獲量の変化